



大体ここにやってきた小型の双発機からして、充分遅れてやってきたうえ、ようやく搭乗したら、今度はなかなか飛ばない。乗り口と反対側のエンジンはゆっくり回っているが、ドアを閉めてドア側のエンジンをかけようとしたらうまくいかないらしい。しばらくしてドアがまた開くと、太目のおっちゃんに乗ってきて、操縦室に入りややしぱらくしてから、ようやくエンジンがかかり、おじさんはそそくさと降りていった。しかし、降りていれぬかな。途中でどうにかなったらどうするのだ。敵愾逃亡と言う単語が頭をよぎる。

まあ仕方ない、せっかく動き始めたのだから、飛行機はあつという間にエンジンの音を高くして、ぶるぶる震えながら滑走路に走ってゆき、そのまま、さささと飛び上がる。飛び上がったが、上昇中にとんでもない大音響でエンジンをぶかす。何度も何度もぶかして機体をゆすりながら右旋回しつつどうにか高度を上げて西へ、ガンジス川へ向かう。だいじょうぶかいな。

そしてようやくジェソール空港着。今日は風、ゆら、いつもの「くれくればあさん」はぬないと安心してたら、車が出る頃に気づいたらしく、やっぱり、窓ガラスに張り付いて「金だ、金だ！」と一騒ぎして、いくらあげて出発。

ホテルはいつものところ、チェックインして五階の部屋へ行く。当然エレベータだろうとエレベータ前に並ぶと、ボーイがスーツケースを持って階別ご行こうとする。ちょっと待てよ、こっちは70歳の人だっているんだエレベータで登ろうよ。だいじ、自分で持てる荷物を持ってもらってチップを払うなんてやなこと、ひとめするが、どうしても階段でぬいといけぬという。あとから聞いたら、前の日にケーブルが切れてエレベータが落ちたと言う事で、前の日だからいようなもの、今日だったらどうなるんだ、いほどき一つしかぬいエレベータが落ちるなんてあるのかよーと言いつつ部屋へ。そして部屋へ入ったら荒れ放題、前の人が出て行ったまんま、濡れたタオルはベッドの上で投げたは、飲みかけの瓶やコップが散乱しているは、ベッドは前の人が出て行ったまんまだわて最悪。

今回のバングラディッシュ行きは毎日5～6時間は車や船で走り回り、活潑的には本当にうまくいきそうな雰囲気、心配していた帰りのダッカまでのフライトも無事着き、安心して、ダッカから香樹に向かう。ここで、トランジット時に飲みかけのウイスキーの残りを検査のお姉ちゃんに、にやっと笑って取り上げられ、もうこれで不幸おしまいだろうと思ったら、日本に近づいてきたら、機体は大揺れ、トイレも汚れ、「まるで、昨日まで走り回っていた田舎道だな。」と言いつつ帰国。すべてがうまくいく旅なんてそうはぬいせんですねー。

ブログのアドレスです <http://blog.goo.ne.jp/gnomesjp/>

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TELFAX 03 5600 0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com